

梁受け金物の仕口加工研修と接合耐力の性能評価

これまでの住宅建築における部材接合は、伝統的な仕口加工、引寄せ金物等により行われておりましたが、近年では、接合金物の利用が増加しており、製材工場等もこのような変化に対応していくことが必要となっております。

このため、南部アカマツ振興センターでは、平成21年3月に久慈地域で金具接合研修会を開催するとともに、5月から岩手県林業技術センターとの共同研究に着手し、住宅の設計・建築に必要な接合強度等の諸性能の評価・把握を行い、長期優良住宅等へ対応した高耐久性の接合方法の開発に取り組んでおります。

今回、横架材としてアカマツ、クリ材、柱材としてスギ、クリ材等を用い金具接合を行った際の強度性能評価を実施いたしました。結果、初期剛性は樹種間に差異が無く、接合金物に依存していることが明らかとなり、剪断耐力は柱スギ・梁アカマツ

の条件に対して、柱クリ・梁アカマツの条件では1.7倍に性能が向上することが明らかとなりました。この結果を受け、南部アカマツ振興センターでは、

無垢材の金具接合に対応可能地域材であるアカマツ、クリ材を併せて活用すれば高耐力の接合が可能

という高付加価値化を行い、設計士、工務店へPRを進める予定です。



写真1 接合研修



写真2 強度試験